

ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)

教員氏名	王 明君
主な担当科目	音楽基礎演習_留学生A/初級音楽(理論)/基礎音楽(理論)(火4),基礎西洋音楽史_A(水5),初級西洋音楽史_A(月5),初級西洋音楽史_B(月5)
2024年の教育目標・授業に臨む姿勢	中国人留学生の増加、更には中国国内の若者を取り巻く状況も年々変化しており、その学生達および保護者の経済的環境や価値観も大きく変わってきております。演習や実技系の科目の習得には興味を示す一方、座学系科目に対する必要性には接することが少ないまま入学している学生も少なくありません。できるだけ時間を割き、理論や歴史、語学を学ぶことの重要性もしっかり伝えて行くことを第一に考えること、そして日本と同様で昔のように「正しいことを厳しく教える」だけでは通用しなくなっているため、その点も留意していくこと、が24年の目標でした。
2024年の教育に関する自己評価	上記と多少重複しますが約10年ほど前の学生と現在の学生は世代間のギャップもあるため、授業内容の進め方、速度、出題内容など少しずつ変化させる努力を致しました。また、毎年のことではありますが理論や歴史、語学も音楽と大きく関わるということも時間を割いて説明をし、ある程度の理解は得られたという自負はありますが、もう少し工夫することができたら、と感じております。来年度は100分授業になるのでその点を大きく生かしていきたいと考えております。
2024年のFD活動に関する自己評価	学生と教員がお互い楽しく学び合うための開かれたコミュニケーション、という点に重点を置き、授業の雰囲気から学生のモチベーションにつながるよう努めました。まだまだ難しい部分が多いので来年度も引き続き工夫して参ります。
授業改善のために取り入れた研修内容	取り入れた内容に「UNIPA」を挙げたいと思います。昨年度よりUNIPAが導入されました。学生にとって、出席状況のチェックがわかりやすく自己管理につながる、という利点もある一方で休講や補講の確認がわかりにくい、という声もあります。UNIPAのメリットとteamsの良いところ、うまく共存させるよう授業内でも学生に促しました。

2024 年度(後期)「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード:2609 教員名:王 明君

1)アンケート結果に対する所見

全体的に大きな不満や要望などはないという印象だった。しかし、大学院の音楽研究法基礎に関して、Q2.については少し数字が芳しくなかったように思われる。

2)要望への対応・改善方策

この授業において私は補佐という立場であるが、授業全体を通して見ていた限りでは概ねシラバス通りに進められていた、という印象だ。しかし、数十名の学生が相手であり理解度も様々、特に留学生は言葉の問題もある為、ご担当の先生も大変丁寧に指導および対応をされていた結果、時間オーバーで内容が次週に持ち越される、という場面が幾度かあった。私も、もう少し学生に寄り添い中国人には母国語で話しかけるなど、気をつけていきたいと思う。

3)今後の課題

理論系の授業では、理解度の異なる学生を一度に指導しなくてはいけないので、クラスにより進度が異なってしまうことがある。チェックを怠らず、特に言葉がまだ不十分な学生に対しては積極的に声掛けをしていきたいと思う。

以 上